

院内感染を限りなくゼロに

感染制御部が4月発足

専任スタッフで

病気を治療するため
の病院で、新たな病気に感染してしまふことがあつてはいけません。それだけに、病院における感染対策は、患者さまはもちろん、医師、看護師ら医療従事者の安全を守るうえで、とても大切です。阪大病院では4月から感染制御部が新たにスタート。感染症に対してこれまで以上に目を光らせ、院内における感染をゼロに近づけていきます。

阪大病院ではこれまで、感染症対策部が肺結核や院内感染の原因菌として知られているMRSA(メチシリン耐性黄色ブドウ球菌)などによる院内感染を予防、治療するために活動していました。しかし、専任で感染症に対応していたのは感染症専門の看護師が1人で、他のスタッフは他の診療科、中央診療施設

の細菌検査で抗生物質の効かない細菌、耐性菌が発見されたら、どうして耐性菌になったのかの原因を徹底的に究明します。

耐性菌が発見された診療科における抗生物質の使い方を分析し、治療体制などを分析して、耐性菌が生まれやすいような治療システムを構築していきます。また、入院している患者さまに感染した疑

いがある場合には、院内に感染制御部に連絡してもらおうようにします。さらに、これらの分析結果と院内の各診療科や病棟における薬剤の使用実態、発見された細菌などをデータべ

て感染症の治療を行うことが一般的だったのですが、感染制御部のスタッフと主治医を含めたチームで、常に最も効果的な治療が行われるようにします。

す。具体的には、院内の細菌検査で抗生物質の効かない細菌、耐性菌が発見されたら、どうして耐性菌になったのかの原因を徹底的に究明します。

す。具体的には、院内の細菌検査で抗生物質の効かない細菌、耐性菌が発見されたら、どうして耐性菌になったのかの原因を徹底的に究明します。

耐性菌が発見された診療科における抗生物質の使い方を分析し、治療体制などを分析して、耐性菌が生まれやすいような治療システムを構築していきます。また、入院している患者さまに感染した疑

いがある場合には、院内に感染制御部に連絡してもらおうようにします。さらに、これらの分析結果と院内の各診療科や病棟における薬剤の使用実態、発見された細菌などをデータべ

て感染症の治療を行うことが一般的だったのですが、感染制御部のスタッフと主治医を含めたチームで、常に最も効果的な治療が行われるようにします。

す。具体的には、院内の細菌検査で抗生物質の効かない細菌、耐性菌が発見されたら、どうして耐性菌になったのかの原因を徹底的に究明します。

耐性菌が発見された診療科における抗生物質の使い方を分析し、治療体制などを分析して、耐性菌が生まれやすいような治療システムを構築していきます。また、入院している患者さまに感染した疑

いがある場合には、院内に感染制御部に連絡してもらおうようにします。さらに、これらの分析結果と院内の各診療科や病棟における薬剤の使用実態、発見された細菌などをデータべ

最先端の画像診断や照射治療

腫瘍の「狙い撃ち」も可能

放射線部という、レントゲン撮影など診断を助ける画像撮影だけをすることと思われているようですが、そ

れだけではなく、放射線を使うたり、画像を利用して肝臓がんや脳腫瘍などの先端治療を行っています。また、診療科と協力して、新しい画像診断法や治療法の開発も行っています。

放射線治療部門ではがんの放射線治療が必要な患者さまのために、放射線が患部以外

のところに当たらず、最適な量を照射することのできるリニアックと呼ばれる装置があります。脳腫瘍の腫瘍部分だけを放射線で狙い撃ちできるサイバーナイフという先端治療機器もあります。放射線部で撮影された画像は

データベース化され、各診療科の端末で簡単に取り出すことができます。放射線部には、中村仁信部長、友田要副部長ら医師3人も在籍し、他の診療科の医師とも協力しながら画像



血管造影装置をCTと組み合わせたangioCT装置

放射線部

一般撮影部門は、X線による胸部レントゲン撮影や胃の透視など一般的によく知られている画像撮影をしています。特殊撮影部門ではCT

と組み合わせたangioCTも設置されており、この装置では血管の走行が立体的にわかるので、画像診断の精度の向上とカテーテル治療や手術の安全性の確保などにも役立っています。

核医学部門には、がんの早期発見や遠隔転移の発見に威力を発揮するPET(陽電子放射断層撮影法)が設置されています。

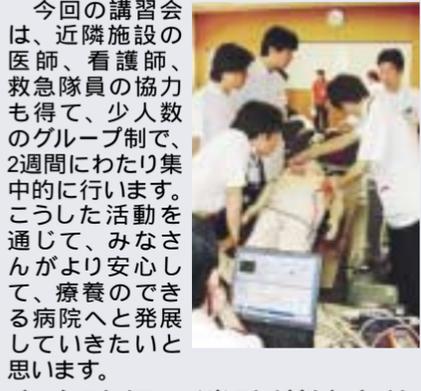
平成15年3月、本院において、手術中の輸液ルート及び送血ポンプの不適切な操作により、重大な医療事故が発生しました。まず、患者さまと御家族にこのよう

新研修医に救命処置トレーニング

突然容態が悪くなられた患者さまに対して、瞬時に適切な対応ができることは、医師をはじめとした医療関係者にとって大変重要なことです。阪大病院では、新研修医向けにACLS(Advanced Cardiovascular Life Support)と呼ばれる高度な救命処置の実践的なトレーニングを行っています。

講習会では、緊急時にすぐに役立つよう、教科書的な事柄を学ぶだけではなく、患者さまのさまざまな病態を再現できる特別な人形を使って、具体的な症状に対して、実際にどのように対応するかを学びます。

また、このトレーニングでは、1人で蘇生を行うのではなく、チームの力を生かして、患者さまの困難な状態に立ち向かうことが求められます。



救命処置トレーニングの様子

安全確保へ消防訓練実施

病院内で火災が起こった際に迅速に対応できるように2月14日、東12階を火災の発生源と想定した消防訓練が行われました。

病院では、年2回、昼間・夜間を想定して訓練を行っており、病院スタッフの非常時における役割を再確認し、患者さまの安全を確保できるように努めています。

また、看護部では、独自の取り組みとして2カ月ごとに消防訓練を実施し、患者さまのもっとも身近で働く看護師の非常時における対応・安全教育的の徹底を図っています。

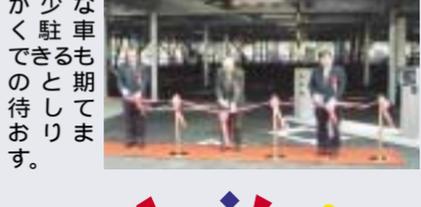
立体駐車場完成、100台分増える

立体駐車場の完成テープカットが3月31日に行われました。これまで平面駐車場だけでは手狭だったために、昨年末から工事をしていましたが、このほど完成いたしました。

4月1日から立体駐車場の使用が始まり、これまでより100台多く駐車できるようになりました。料金は従来通り、1時間200円(30分以内は無料)で、受診日は無料です。

工事中は、利用者の皆様方には、何かと迷惑をお掛けいたしました。また、公共交通機関の利用等ご協力をいただきまして本当にありがとうございました。

駐車スペースの拡大により、病院周辺道路の渋滞が解消され、受診の際に患者さまが車で来られても、待ち時間が少



立体駐車場の完成の様子

質問箱

阪大病院には「意見箱」が設置されていますが、意見はどのように扱っていただけるのですか?

本院では、さわやか行政の一環として、患者さまからいただいたご意見をもとに、気持ちよく利用していただける病院を目指して運営改善に取り組んでいます。

これまで、外来会計の待ち時間短縮、テレビ・冷蔵庫付き床頭台の設置などを進めてきました。

しかし、予約診療でありながら、時間が守られないことやスタッフの言葉や態度に対するご意見なども寄せられており、まだ改善されていない点が多々あります。引き続き指導、改善に取り組んでおります。

今年からご意見に対する取り組みの概要を、外来1階エレベーター横の掲示板に随時紹介することになりました。また、連絡先を記入されておられる方に対しては、担当各課などから個別に連絡・回答することとしました。

ご意見箱は外来各階と各病棟に設置しています。病院の改善に対するご意見をお待ちしております。



箕面市薬剤師会
会長 池田 克一

では患者さまに「お薬手帳」を渡し、いろいろな病院から処方された薬が重複していないかどうか、薬同士や食べ物との飲み合わせはないかなどをはじめ、アレルギー、副作用などもチェックしています。また、患者さまが受診される際の医療機関、薬局に行かれても「お薬手帳」を示すだけで、これまでの服薬状況が分かるようになっています。

かかりつけの薬局を

たたくさい

箕面市薬剤師会では毎月研修会を行い、患者さまにとって有益な薬の情報を提供し、より質の高い医療が行えるように努力しています。薬のことで分からないことがありましたら、お気軽にご相談いただくか、ホームページへアクセスしてください。

特定機能病院として高度の医療を提供するとともに、患者さまの医療安全の確保にも積極的に努めてまいりました。が、今回の事故はこれまで本院が頂いてまいりました大きな信頼と期待に背くものであり、病院として深く反省をしております。

今後、本院が皆さまから信頼を取り戻すことができるよう、原点に戻って全職員が一丸となって医療事故防止に取り組む所存であります。